

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立荘原幼稚園）

分 野	評価項目	評価の着眼点	自 己 評 価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価（点数式）	評 価（記述式）	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標、めざす幼児像から各学年の学級経営の目標を掲げ、月計画、週案等を作成し、反省評価を加えながら日々取組んできた。 ○定期的に担任会を開催し、現状の育ちを話し合い、今後の見通しをもった取組について、次の目標を見出しながら進めていっている。 ○保護者アンケートにおいて、「幼稚園に行くのを楽しみにしている」「豊かな体験んができる教育の場」などそう思うA、だいたいそう思うBの総計がいずれも100％と評価をいただいている。	4	【幼稚園教育・幼児理解等について】 ○幼児個々の主体性を大切にした指導がされている。 ○生活発表会など子どもの育ちを把握し、つけたい育成すべき力の育成に向け（幼稚園教育要領）教育課程が編成されている。 ○保護者アンケート結果からも教職員の子ども理解や教育の工夫に対する信頼が高く、その姿や子どもの登園の喜びから実感をもって評価がされている。 ○クラスだよりで園での子どもたちの様子や先生の考えや気持ち、目標などが伝わってくる。 ○園で作った作品にはアイデアが素晴らしい。 ○保護者アンケートにおいて「幼稚園に行くのを楽しみにしている」が全員の評価を得られたのは、教職員が平素から園運営に積極的に取組まれている結果であると評価する。 ○コロナ禍であっても園児がのびのびと園生活を送っている姿を見て、安心した。	○教育目標・めざす幼児像の具現化を図るため、具体的な姿を意識しながら職員間で共通理解を深めていく。 ○幼児理解を深めていくためにも、担任会や記録日のもち方を工夫し、多面的に幼児を捉え、保育環境や教師の援助の改善に努めていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○各学年で記録日を設け、多面的に幼児一人一人の実態を捉え、どのような環境の構成や援助を要するかなど話し合いながら、幼児理解や保育の組み立て等に努めてきた。 ○幼児一人一人の課題を見出して支援法を探り、補助教諭との連携を図りながら、きめ細やかな対応に心がけている。 ○保護者アンケートにおいて「教職員は一人一人の子どもをよく理解し、子どもの意欲や自信を引き出す保育を行っている」の評価AB総計100％と評価をいただいている。	4	○園児数が増えていることから、今後もあらゆる機会を捉えて安定的な園児数が確保できるようにしてほしい。 ○幼稚園の特色づくり、そのPR、地域との連携等良い方法を模索する必要がある。 ◇ゲーム機、スマホとの向き合い方について、幼児から学んでおく必要がある。	○特別に支援を要する幼児については、専門機関と連携をとり、保護者へつないだり、我々の専門知識を深めながら職員間で話し合いをしたりして、よりよい支援法を探っていく。また、支援ファイル作成が必要な幼児については、じっくり保護者と関わり、納得の上でファイル作成に繋げていけるよう努めていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○支援を要する幼児について、その保護者と専門機関をつなげ、話し合いの機会を設けたり、相談に乗ったりしながら支援法を探っていった。 ○巡回訪問等の指導を受け、保育環境等を工夫し、特別支援補助教諭との連携を図りながら、よりよい関わり方、指導の仕方等を話し合い、取り組んでいった。 ○気になる幼児への対応として、できるだけクールダウンする時間や場の保障をし、気持ちが安定して過ごせるよう工夫していった。	4	◇幼稚園の質の高さや子どもの変容、学びに向かう姿を保護者に伝えることを大切にしていってほしい。	○今後も親子で人権感覚を身に付け、意識した関わりができるよう啓発に心がけ、人権標語等も継続して取り組んでいく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○園経営、学級経営の中に人権・同和教育を規定に据え、人との関りや人権感覚・意識を捉えた指導、保育に取り組んでいる。保護者への啓発活動として人権標語作成等にも取り組んだ。 ○日々の保育の中で、幼児同士の関わりや言葉のやり取り等に留意し、相手を思いやる言動に着目し、相手の良さを認め合える関わりを大事にし、不快感を与える言動についてはその場で指導を行っている。また、保育教材として絵本や絵図を用いて、分かりやすく話をしたり説明をしたりしている。	4	○園児数の減少傾向にある中で、「さんさんランド」の参加人数が増えてきていることから、今後もあらゆる機会を捉えて安定的な園児数が確保できるようにしてほしい。 ○幼稚園の特色づくり、そのPR、地域との連携等良い方法を模索する必要がある。 ◇ゲーム機、スマホとの向き合い方について、幼児から学んでおく必要がある。	○保幼小連携の活動においては、コロナ禍であっても大事な関りは継続していきたい。保幼小交流の日や自主的な関わりを求める活動など工夫し、取り組んでいく。また、職員同士の連携を深め実際に園児や児童と具体的に交流できる方法を検討していく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○感染症対策を講じた園生活が3年目となり、行事の内容を精選して開催してきたことで、見直しにもなり、徐々に習慣化してきている。 ○行事への参加については、徐々に緩和され、保護者研修を遊戯室で開催したり、運動会等に来賓を招いたりして、多くの人に園の様子を知ってもらう機会が増えてきた。 ○保護者アンケートからも「行事や活動が工夫されている」に対して評価AB総数が100％であり、そのうち評価Aが90％を超える高評価をいただいている。	4	【特別支援について】 ○支援ファイル（通級該当児等）の作成を積極的に進めてほしい。（入学してから作ると適切な支援計画を立てるのに時間がかかる）	
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○保育園とは感染対策のため直接の交流はなかったが、場を同じくして「芋苗植え」「芋掘り」体験をし、スポーツDEスマイルでは年長同士で挨拶を交わしたりし、出会うきっかけ作りとなった。 ○今年度は「保幼小交流の日」が開催でき、実際に小学校へ出かけたことは、年長児にとって貴重な体験となった。 ○園校長会において、互いの情報交換を行ったり、斐川東中校区での研修等において話し合いに参加する機会を設け、実施することができた。	3	【保幼小連携について】 ○保幼小の連携はよくとれている。 ◇コロナ禍の対応が変わっていることもあり、来年度は連携（職員間）を図るとよい。	
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○毎朝の健康チェックや降園時のやり取り等で、感染対策を講じつつではあるが、直接保護者と会話するよう心掛け、子どもの様子を伝え合い、情報交換するなどに努めてきた。 ○連絡帳やホワイトボードでその日の出来事、伝えたい場面等の情報を提供したり、学級だより、園長だよりを発行したりし、その時々様子を知らせる工夫をしている。 ○保護者アンケートにおいて「幼稚園からのお知らせ、学級の様子等、必要なことをわかりやすく伝えている」の評価AB総数で98％を超える評価をいただいている。	3	○地域の「ひと・もの・こと」を生かした教育活動が計画的に実施されている。 ○ホワイトボードにその日の出来事が記載しており、子どもとの会話につながる。また連絡帳でのやりとりがスムーズ。 ○ホームページが充実して活動の内容がよくわかるようになった。 ◇保護者アンケートの設問6が気になる。相談する窓口、幼児期のいじめ事案等の対応組織はどのようにしてあるのか（入学後に引き続かないように）	○情報発信等を意識し、より幼稚園と家庭とが理解し合えるような連携の工夫をしていく。（お便りやホワイトボード、パワーポイントなどの活用） ○ホームページの更新や未就園児教室（さんさんランド）のお知らせ等、幼稚園PRIに努め、幼稚園の良さに気づいてもらえる工夫をしていく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○今年度は研究主題のサブテーマを検討し直し、全職員共通理解の下、定期的に園内研究日（記録日）を設け、独自の記録シートを活用して話し合いを深めていった。年2回、事例のまとめを実施し、それぞれの課題を見つけ出し、次への目標を掲げ取組んでいる。 ○職員で分担して保育研修へ積極的に参加し、その内容を他職員へ報告し、自己研鑽に努めている。	3	○日々、きめ細やかな指導等、教育の改善につながる研修が実施されている。 ◇市幼研開催に向け、研究が計画的に進められており、この機会を荘原幼稚園教育の更なる充実に結び付けられるようにしてほしい	○園内研究（記録日）を計画し、記録シートを活用しながら、課題を見つけ出し、そこから今後の保育の傾向と対策等検討できるようにしていく。外部講師を招き、研究の取組について指導を仰ぐ。 ○市幼研開催に際し、地域の方々を招き（運営協議会委員）幼児の実態を知り、幼稚園教育について理解を深めてもらえるよう努めていく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○今年度も各学級において保育補助教諭を配置し、担任を中心に様々な園務をこなしていている。また、園全体の連携が整い、情報共有しつつ、様々な作業を協力し合って進めていくよう努めてきた。 ○各職員、それぞれが持っている園務分掌について熱心に取り組んでおり、周知徹底、計画実行に配慮し、滞りなく進めることができています。	4	◇資質向上のために学ぶことは大切であるが、負担にならない程度に取組んでほしい。 ◇時間外勤務が多くならない配慮をしてほしい。	○園務分掌について、それぞれの立場や力量にあった内容をあて、スムーズな園務の遂行に努める。 ○正規職員が少ない中での園務については一人に集中しないよう分散してそれぞれの責務として任務を果たせるよう横のつながりを大事にしつつ、取り組んでいく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○今年度も引き続き感染対策のために、日々園舎内の消毒等衛生面には手を抜かず、徹底して取組んでいった。また、感染症等について保育幼稚園課や市との連携を図り、情報収集に心がけ、敏速に対応できるよう努めた。 ○様々な災害や防犯について訓練を重ね、全職員が共通理解の下、それぞれの役割を認識したり、敏速に行動したりできるよう意識化に努めた。	4	◇教職員評価の中で、課題点を明確にされ、計画的に改善されるよう配慮してほしい。 ◇様々な災害や犯罪などについて、日頃から危機管理を重視してほしい。	○感染症対策の他に様々な災害（火事・地震・大雨・大雪等）や犯罪等、予測のつかない事態がいつ起こるかかわからない。常に危機管理を意識し、出雲市や保育幼稚園課、各関係機関とすぐに連絡が取れる体制を整え、緊急事態に備える。 ○個人情報管理等に留意し、漏洩のないよう注意する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○定期的に園舎内外の点検を実施している。複数の目で不具合等を確認し、教育施設課、担当者へ速やかに連絡をとり、園内外の修繕を行うよう努めてきた。	3	◇消防設備など業者点検が実施されたあと、そのお知らせを保護者へもしてほしい。	○定期的な点検以外にも常日頃から施設、営繕について意識し、物の破損等気づいたらすぐに対応する迅速性をもって取り組む。 ○教育施設課、各関係業者等への連絡をスムーズに行い、安心安全な園生活が過ごせるよう留意していく。

※自己評価の評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する